

第2回 小牧市都市計画マスタープラン中間見直し
及び小牧市立地適正化計画策定委員会(H27.11.16)

小牧市人口ビジョン及び
小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

まち・ひと・しごと創生について

まち・ひと・しごと創生の背景

急速な少子高齢化の進展

東京圏への人口集中

それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく必要がある

まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)

- ・国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること
- ・地域社会を担う個性豊かで多様な人材について、確保を図ること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進を図ることが目的

まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略 (平成26年12月27日閣議決定)

まち・ひと・しごと創生長期ビジョン

人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示

人口減少の加速的な進行

約1億2,800万人 (2008年:人口ピーク) → 約8,600万人 (2060年) → 約4,200万人 (2110年)

合計特殊出生率が2030年に1.8、2040年に2.07に回復

2060年に1億人程度の人口を確保

今後の取組みにおける3つの基本的視点

- ・「東京一極集中」の是正
- ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ・地域の特性に即した地域課題の解決

今後目指すべき将来の方向

将来にわたって「活力ある日本社会」を維持すること

まち・ひと・しごと創生総合戦略

今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策

まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

自立性・将来性・地域性・直接性・結果重視

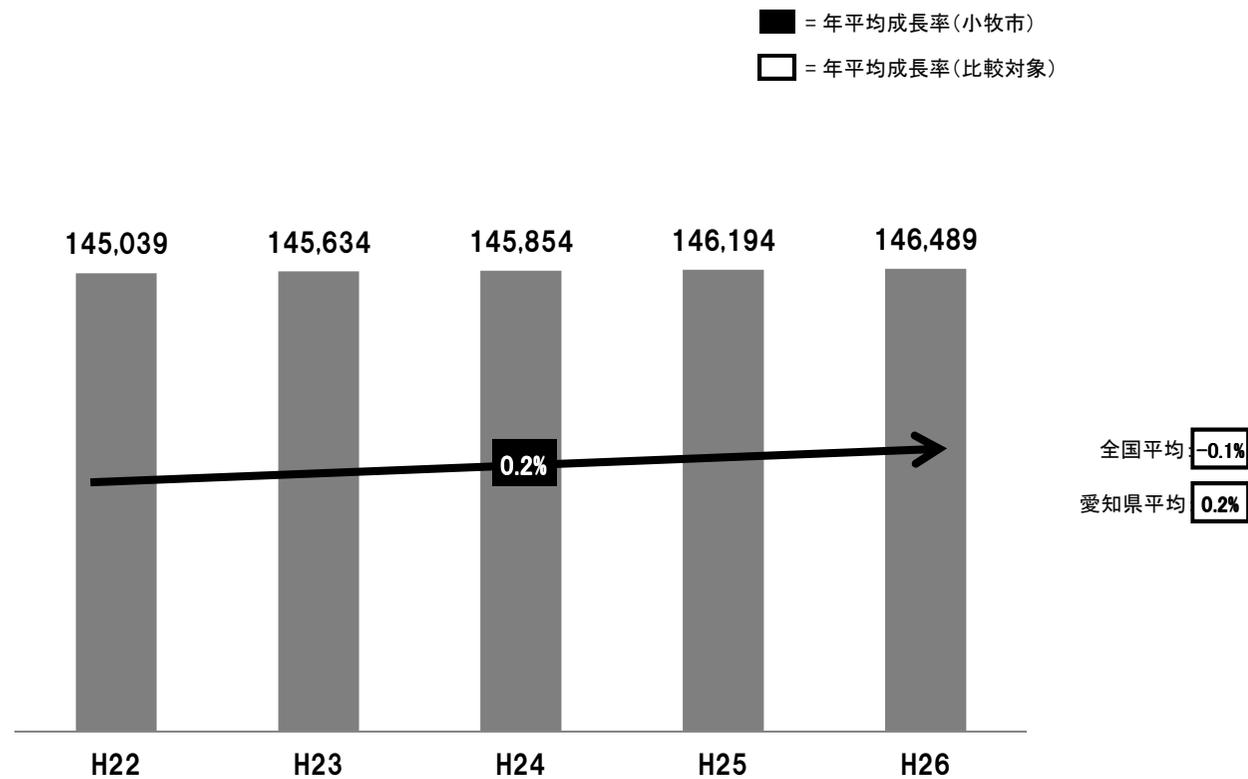
政策の基本目標

- ・地方における安定した雇用を創出する
- ・地方への新しいひとの流れをつくる
- ・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ・時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

小牧市の人口推移 _ 全体

- 過去5年間の人口はほぼ横ばいで推移している

平成22年～26年*における小牧市の人口推移** (人)



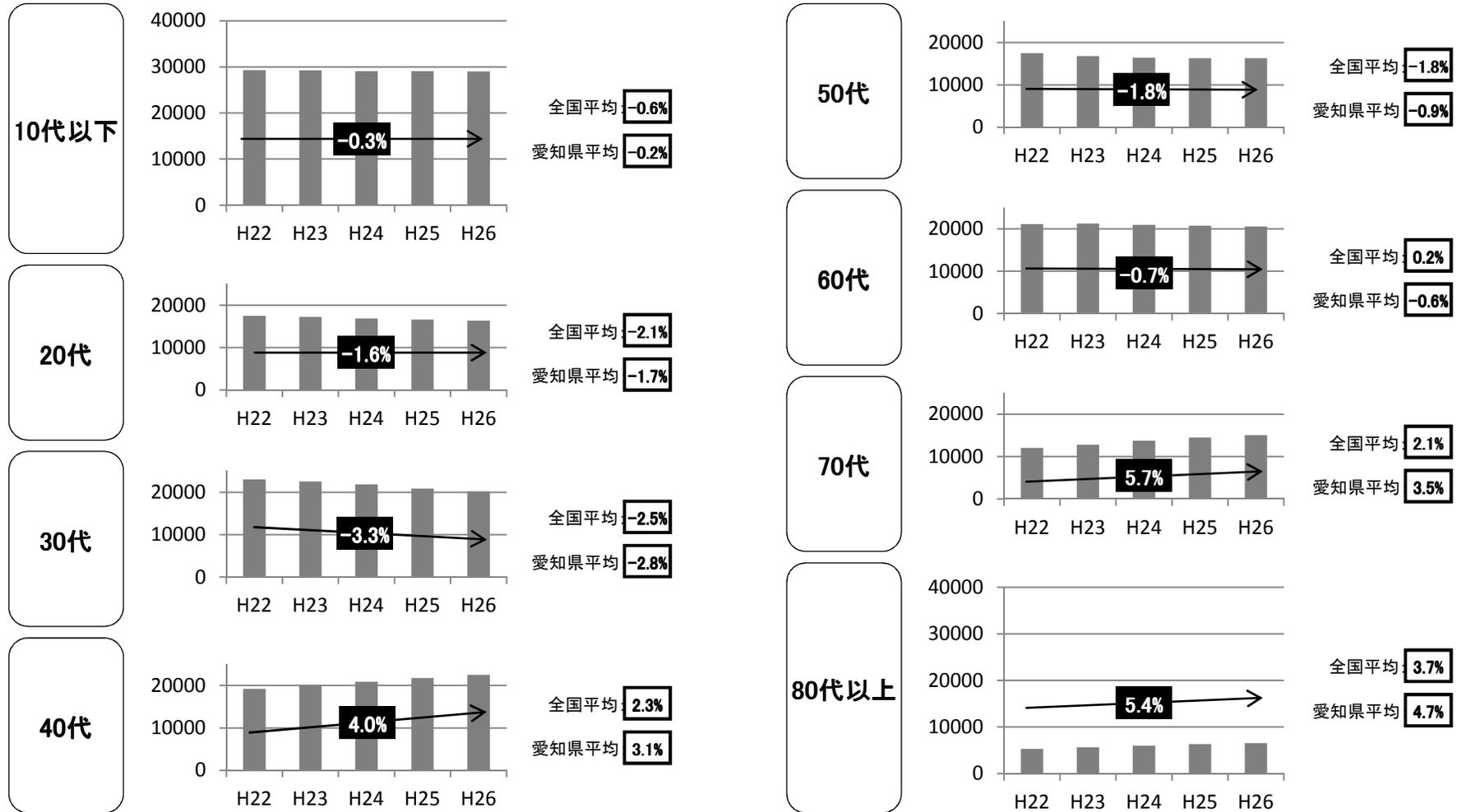
資料: 平成22-26年住民基本台帳人口・世帯数, 人口動態(市区町村別)
* 各年の3月を参照、但し平成26年のみ1月(例:平成24年 = 平成24年の3月時点)
** 外国籍の住民は除く

小牧市の人口推移_年代別

- 生産年齢人口を中心に減少傾向にある

平成22年～26年*における小牧市の年代別人口推移 (人)

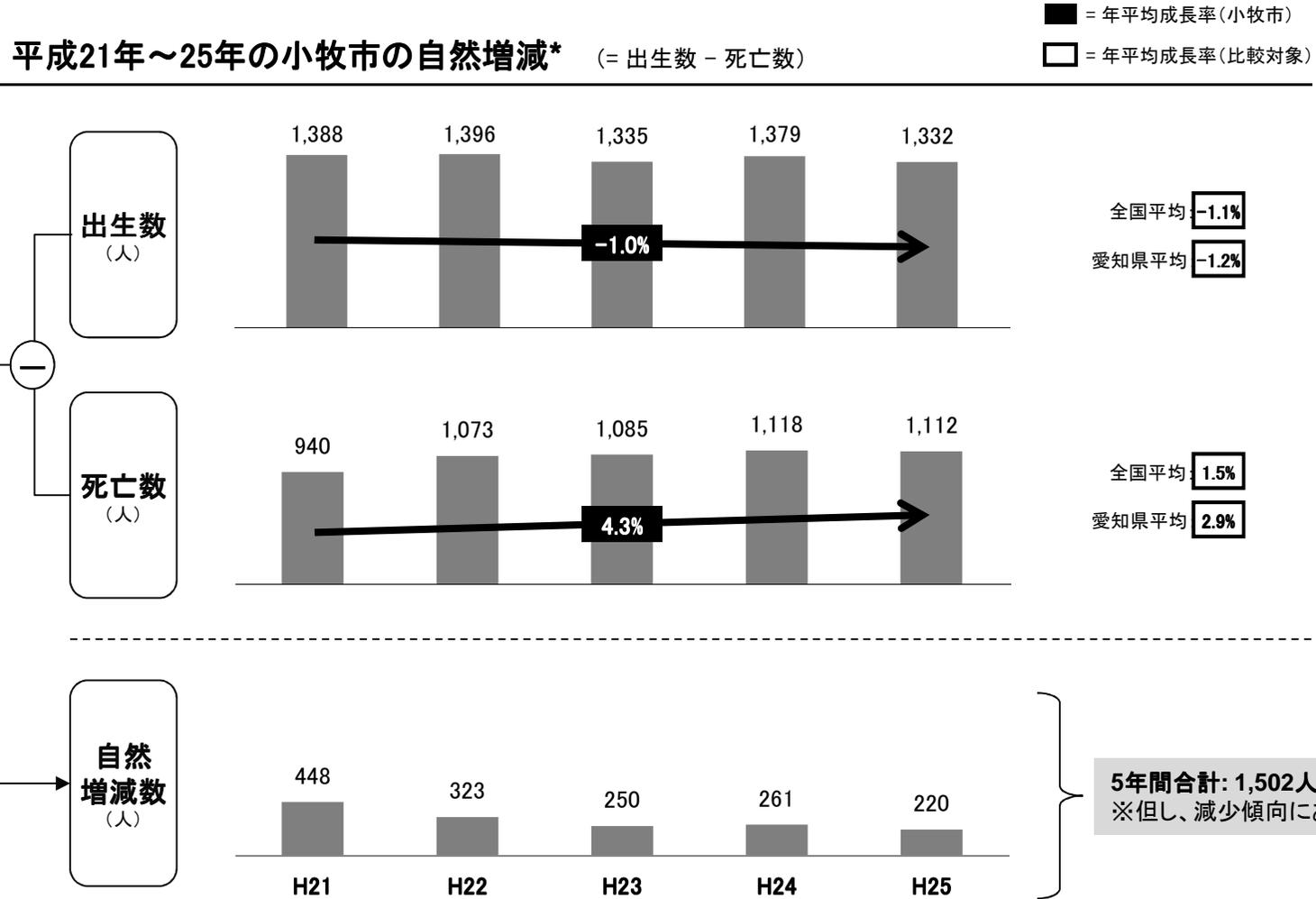
■ = 年平均成長率(小牧市)
□ = 年平均成長率(比較対象)



資料: 平成22-26年住民基本台帳人口・世帯数, 人口動態(市区町村別)
* 各年の3月を参照、但し平成26年のみ1月(例:平成24年=平成24年の3月時点)

小牧市人口の自然増減

- 出生数の減少と、死亡数の増加に伴い、全体として減少傾向にある

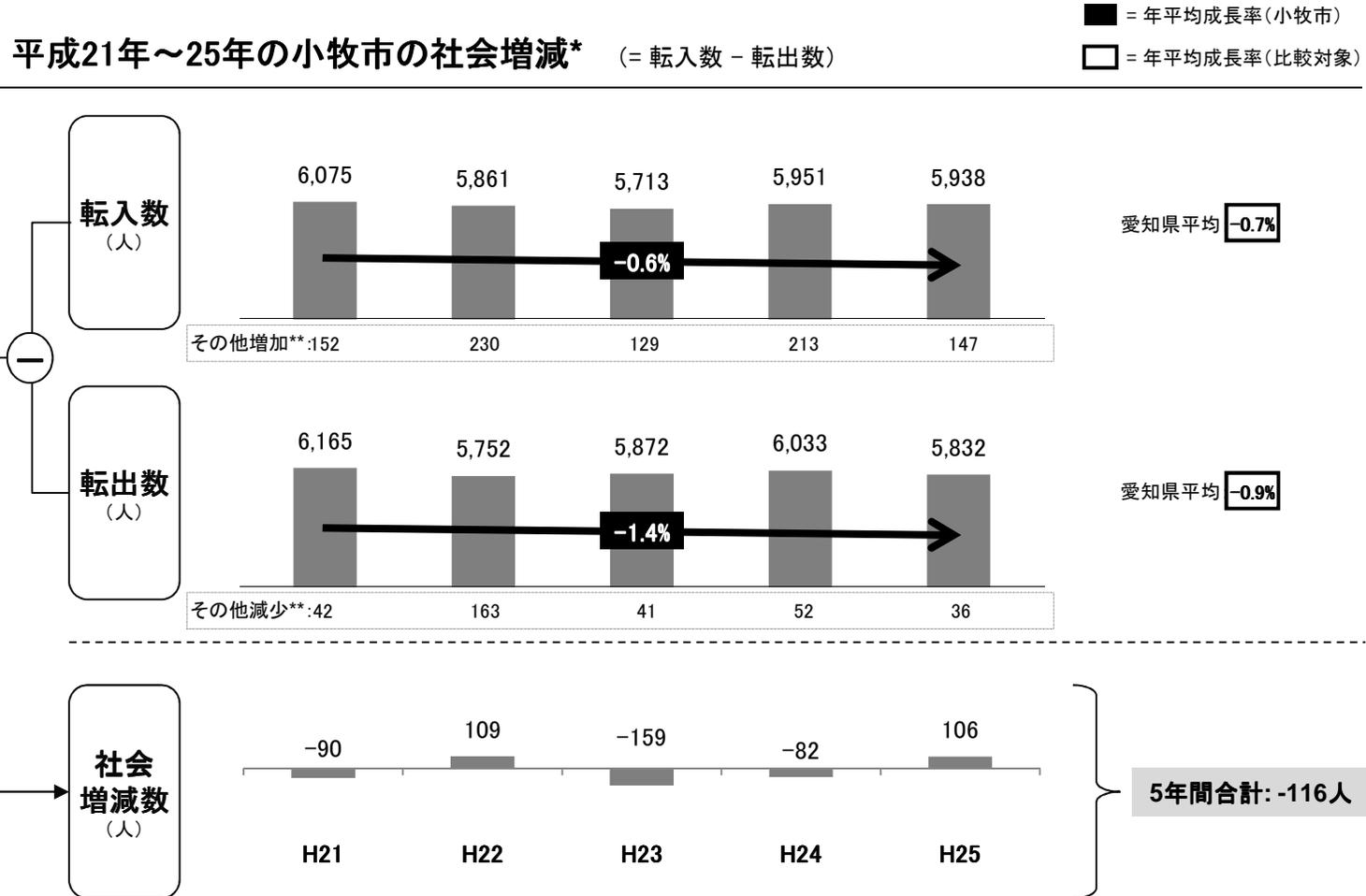


資料: 平成22-26年住民基本台帳人口・世帯数, 人口動態(市区町村別)

* 自然増減・社会増減は、発表年の前年のデータが掲載されている

小牧市人口の社会増減

•全体としての社会増減数は5年平均で見ると減少している



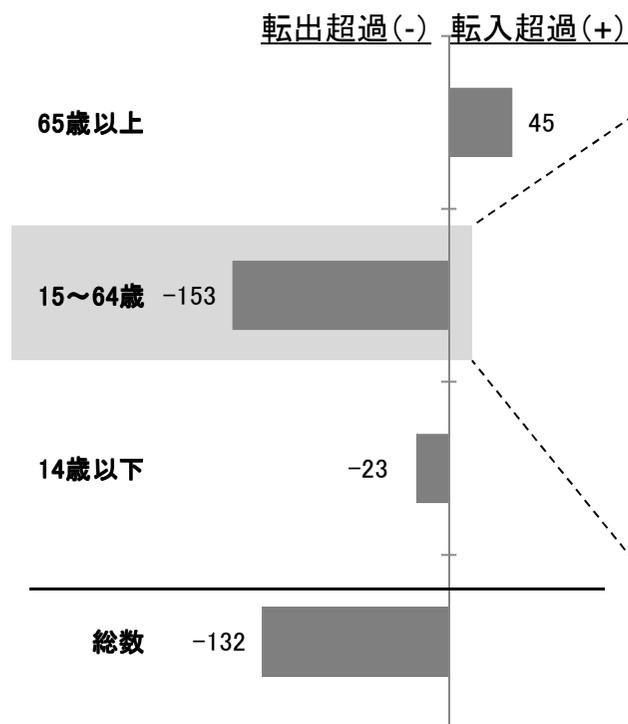
資料: 平成22-26年住民基本台帳人口・世帯数, 人口動態(市区町村別)
 * 自然増減・社会増減は、発表年の前年のデータが掲載されている
 ** その他の増減には、転出入によらない帰化、国籍取得等の社会増減が含まれる

平成26年の小牧市人口の社会増減

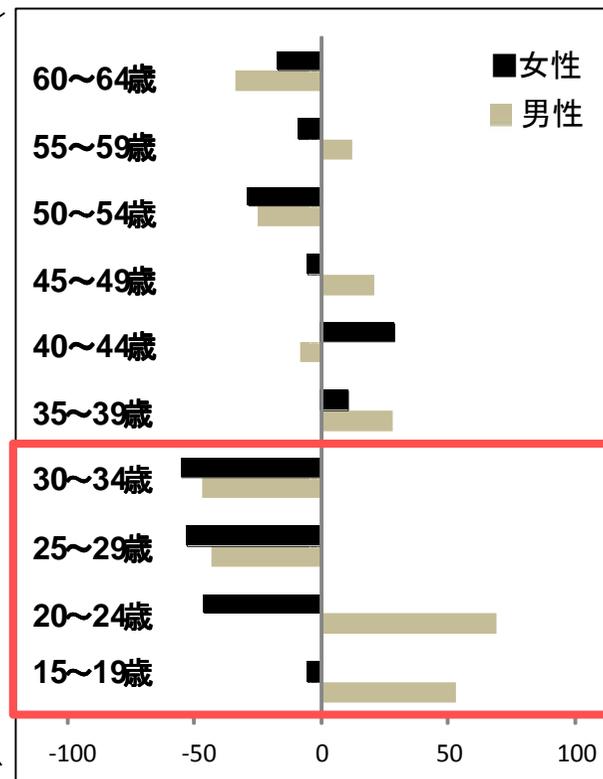
- 生産年齢人口(特に25-34歳)の転出超過は男女ともに顕著であり、特に女性は20代前半からその傾向が強い

平成26年の小牧市の転入転出状況

年齢3区分(人)



年齢5歳階級生産年齢のみ抜粋(人)



転出入に関する示唆

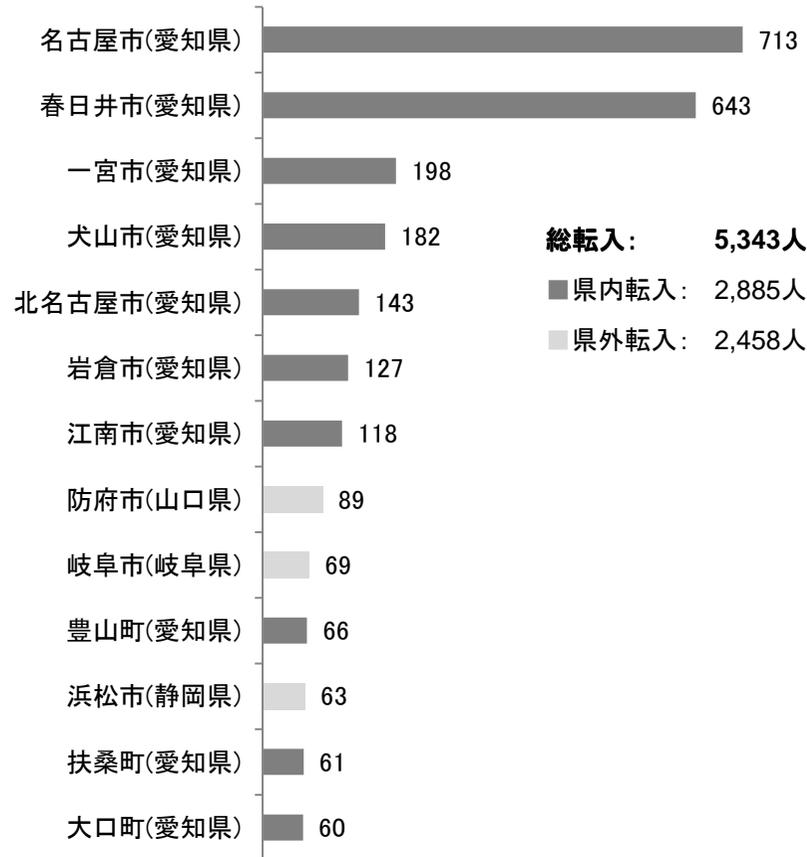
- 男性は、就職時にあたる15-19歳、20-24歳では転入超過。製造業従業員が多いことが影響と推測される
- 一方、25-29歳、30-34歳は転出超過。転勤の影響が大きいと推測される
- 女性の15-34歳は、一貫して減少しているため、転出要因は検討の必要あり

資料: 平成26年 住民基本台帳 年齢(3区分), 男女別他市区町村からの転出入者数一全国, 都道府県, 市区町村
平成26年 住民基本台帳 人口移動報告 年齢(5歳階級), 男女別他市区町村への転出入者数

平成26年の小牧市人口の社会増減 _ 転入元・転出先

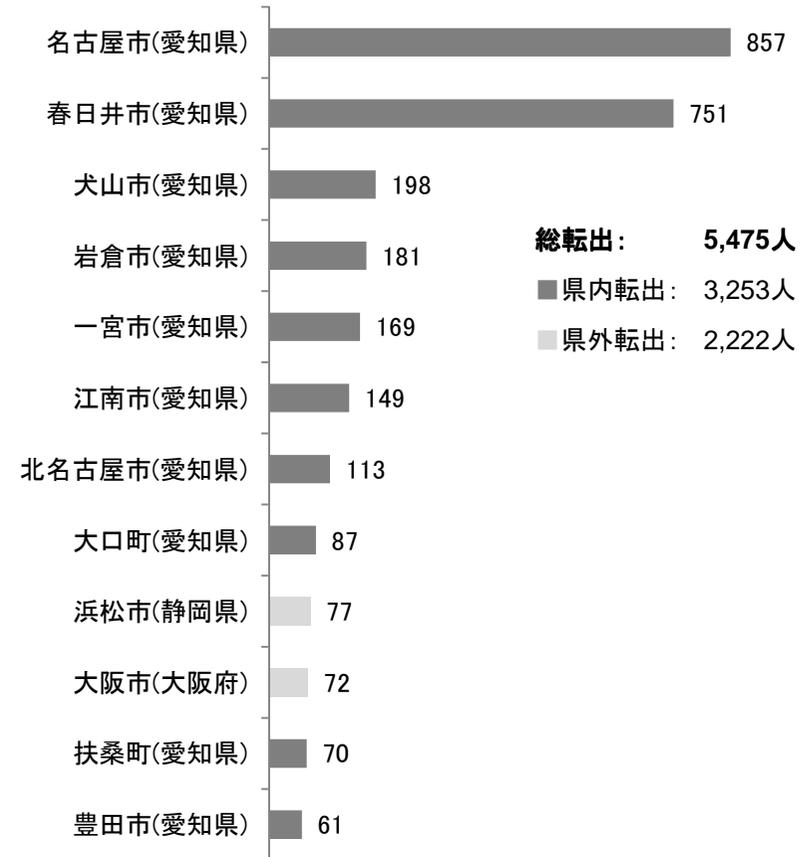
•小牧市は、転勤と想定される他県からの転入・転出が多いほかは、近隣市町村からの転入・転出が顕著である

小牧市への転入元(上位地域) (人)



参考 { 多治見市(岐阜県): 48
可児市(岐阜県): 51
各務原市(岐阜県): 47

小牧市からの転出先(上位地域) (人)



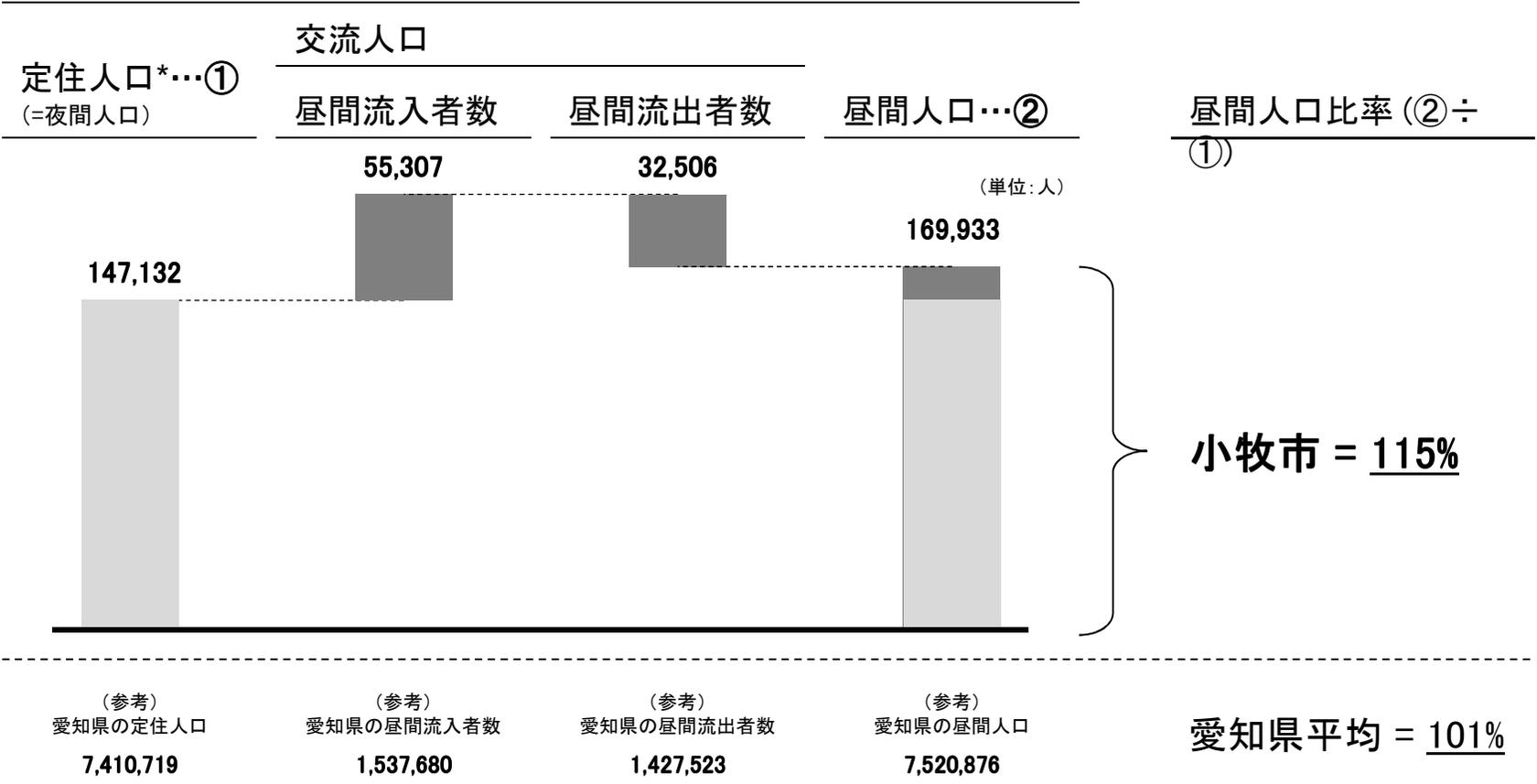
参考 { 多治見市(岐阜県): 60
可児市(岐阜県): 53
各務原市(岐阜県): 31

資料: 平成26年 住民基本台帳 人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級), 男女, 転入・転出市区町村別結果)

小牧市の交流人口

- 流入超過により、昼間人口比率は約115%となっており、愛知県平均よりも14ポイント高い

平成22年の小牧市の交流人口



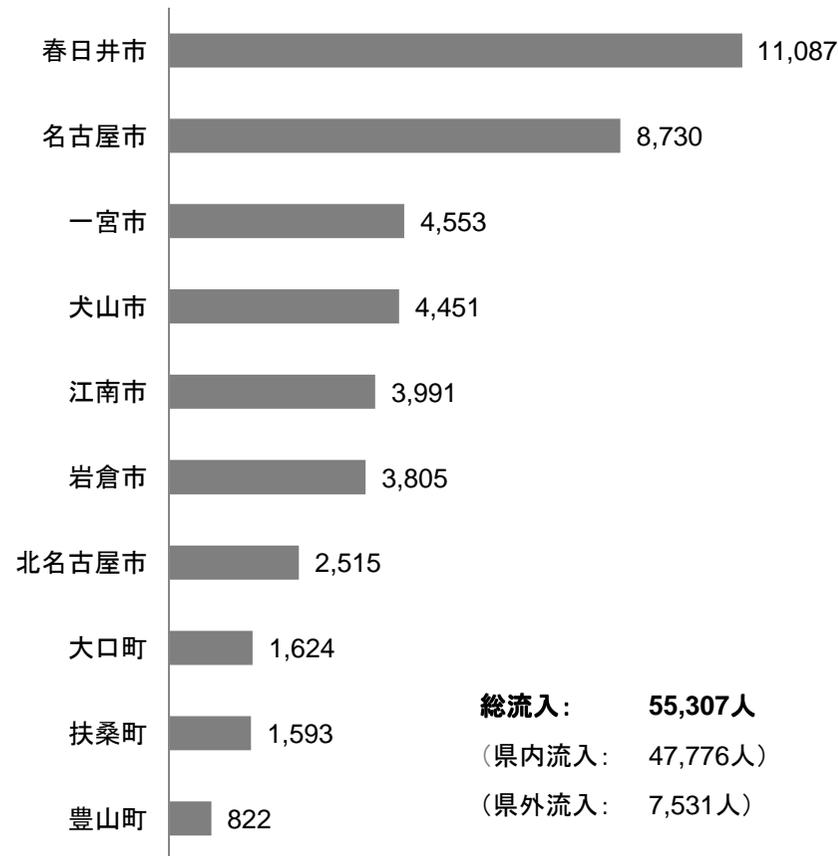
資料: 平成22年 国勢調査 常住地又は従業地・通学地による人口(夜間人口・昼間人口)
 * 本データにおける定住人口は国勢調査ベースの人口であるため、住民基本台帳ベースの数値とは異なる

平成22年の小牧市交流人口 _ 流入元・流出先

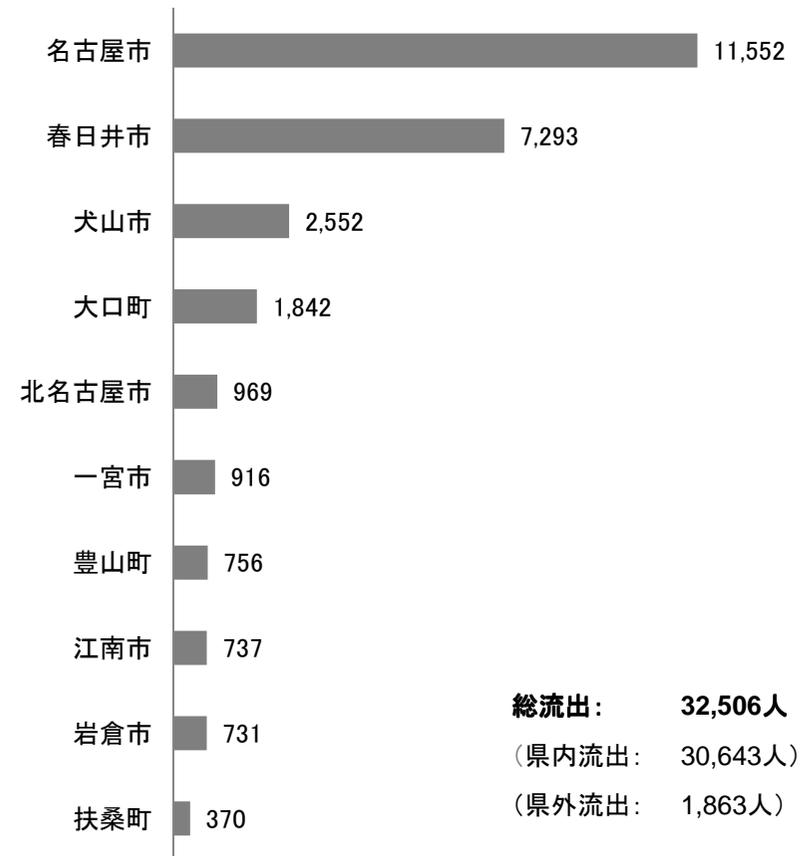
- 春日井市と名古屋市の流入数・流出数が突出している

※ 交流人口の県外市町村別内訳は取得できないため、記載していない

小牧市への昼間流入元(上位地域) (人)



小牧市からの昼間流出先(上位地域) (人)



資料: 平成22年 国勢調査従業地・通学地集計 従業地・通学地による人口・産業等集計
 平成22年 国勢調査 常住地又は従業地・通学地による人口(夜間人口・昼間人口)

* 本データにおける定住人口は国勢調査ベースの人口であるため、p6の数値(住民基本台帳ベース)とは異なる

小牧市の社会増減と交流人口の相関分析

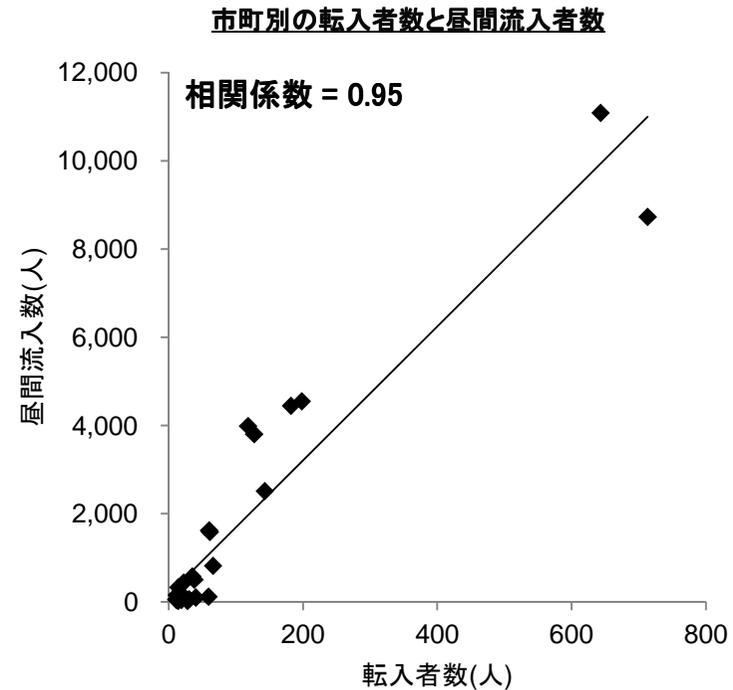
•「年間転入元」と「昼間流入元」の市町は高い相関にあるため、近隣市町村に居住する小牧勤労者の転入が生産年齢層の獲得に寄与する可能性が高いのではないか

小牧市の昼間流入者数と転入者数(TOP10)

転入者数 (平成26年)(人)		昼間流入者数 (平成22年)(人)	
名古屋市*	713	春日井市	11,087
春日井市	643	名古屋市	8,730
一宮市	198	一宮市	4,553
犬山市	182	犬山市	4,451
北名古屋市	143	江南市	3,991
岩倉市	127	岩倉市	3,805
江南市	118	北名古屋市	2,515
豊山町	66	大口町	1,624
扶桑町	61	扶桑町	1,593
大口町	60	豊山町	822

転入者数と昼間流入者数の相関

小牧市への転入者数が多い市町は、昼間流入者数も同様に多い傾向にある



* 名古屋市は区単位ではなく、市単位で取り扱う
資料: 平成22年 国勢調査 国勢調査従業地・通学地集計 従業地・通学地による人口・産業等集計
住民基本台帳 人口移動報告 参考表(年齢(10歳階級), 男女, 転入・転出市区町村別結果)

愛知県市町村の自然増減

・人口の自然増には、一人あたりの出産人数よりも、出産年齢人口の増加が寄与しているため、社会増の影響が強いといえる

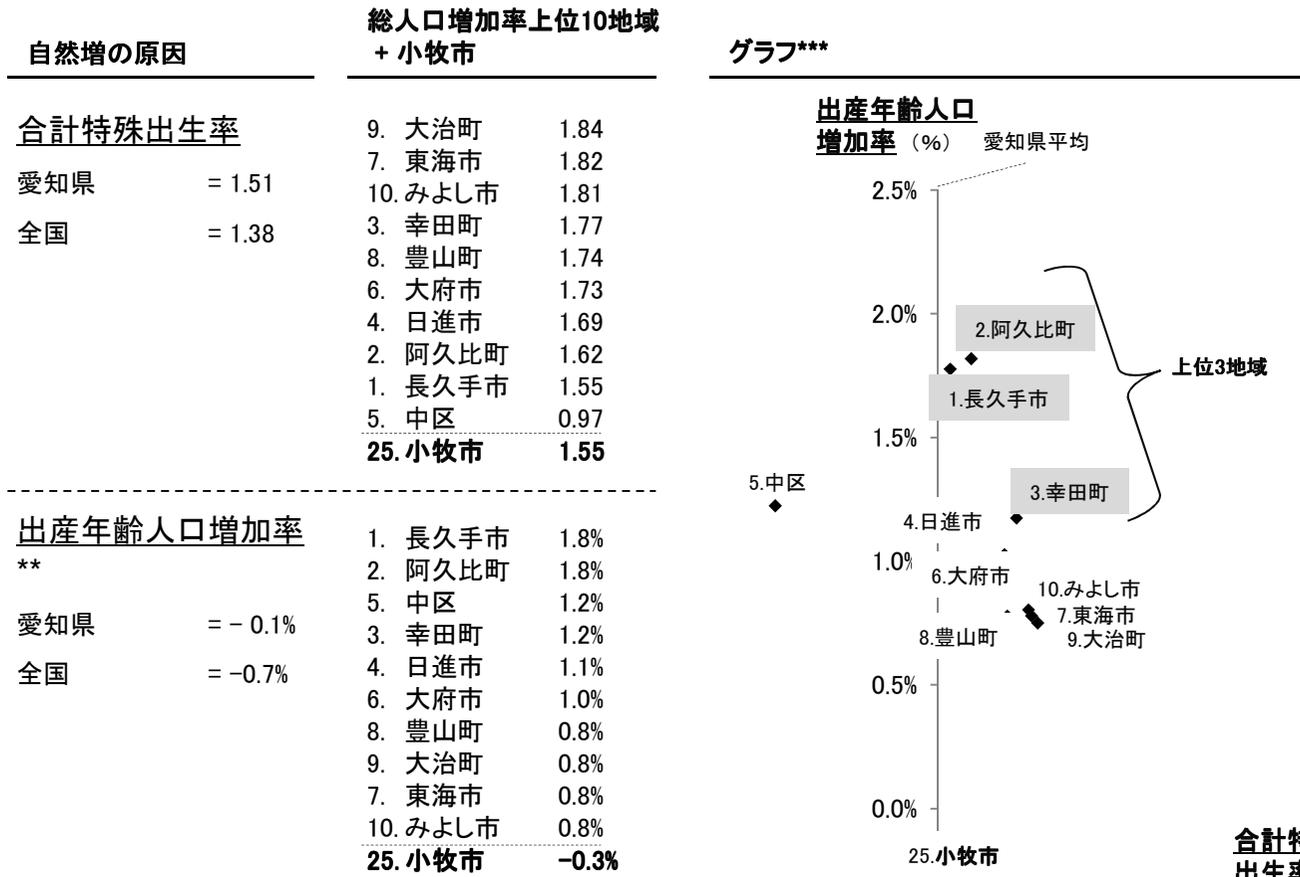
自然増の原因による地域分類*

地域の抽出条件

・ 人口の年平均成長率上位10地域

1. 長久手市
2. 阿久比町
3. 幸田町
4. 日進市
5. 中区
6. 大府市
7. 東海市
8. 豊山町
9. 大治町
10. みよし市

・ 小牧市



資料: 人口動態保健所・市町村別統計 合計特殊出生率・母の年齢階級別出生率, 都道府県・保健所・市区町村別(平成20年~24年) 平成22-26年 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 住民基本台帳年齢別人口(市区町村別)

* 先進国において「死亡数」への介入は困難であることから、本分析の対象外とする

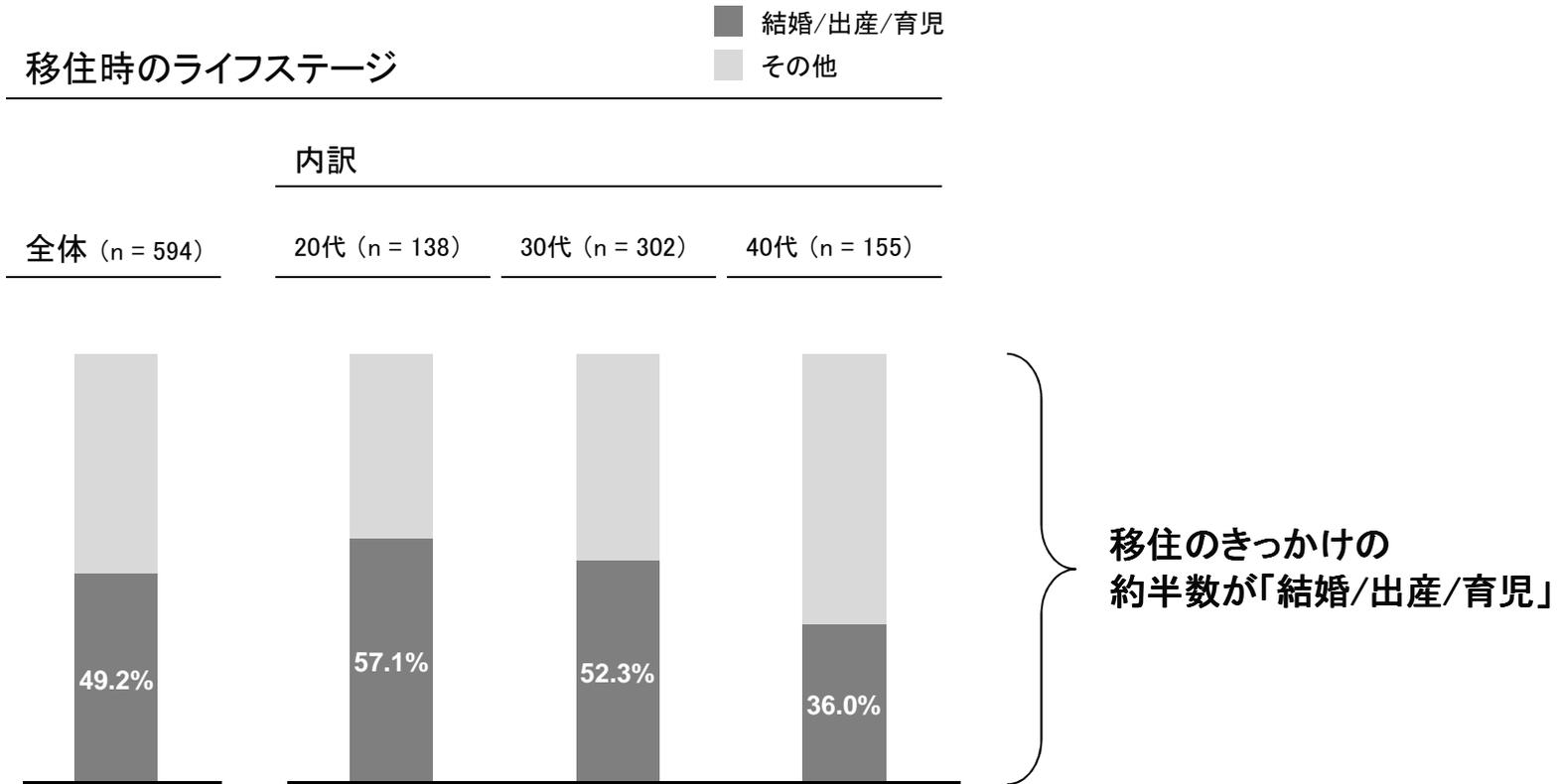
** 保健衛生研究における合計特殊出生率の定義に基づき、出産年齢人口増加率は15-49歳女性人口の年平均成長率(%)として算出

*** 原点を愛知県平均とする

移住検討のきっかけ

- 移住先検討時のライフステージは「結婚/出産/育児」が最も多く、特に20～30代に顕著である

Q: あなたが今の住まいのエリアへの移住を検討し始めたときの状況として、最も近い内容をお答えください。



生活者の居住地選定要因

- 「職場や実家へのアクセス」、「家賃・地価」を要因として挙げる人が多い。その他「街の雰囲気」や「商業施設の充実」、「余暇の交通機関の利便性」、「育児環境」等が上位にある

Q:あなたが現在の居住地に住む要因となった内容をすべてお選びください。

居住地の選定要因内訳 (MA、%)

選定要因	全体 (n = 594)	結婚/出産/育児 (n = 292)	小牧市周辺在住・小牧市内就 労者 (n = 71)
職場アクセス(自家用車)	43.1%	40.7%	49.4%
実家へのアクセス	32.1%	40.2%	41.5%
家賃・地価	29.5%	31.6%	30.2%
職場アクセス(電車)	25.6%	24.0%	28.6%
職場アクセス(徒歩/自転車)	18.9%	15.7%	3.0%
自分もしくは配偶者の実家があったため	18.9%	22.8%	16.1%
街が閑静で落ち着いた	14.2%	16.8%	9.4%
商業施設の充実(日用品)	13.3%	14.9%	9.9%
余暇における交通機関の利便性	12.5%	13.6%	16.0%
育児環境	10.4%	14.3%	6.6%
緑地などの自然の多さ	9.0%	10.0%	6.1%
その他の治安	8.8%	7.9%	6.9%
仕事上の理由等、自由に選定できなかったから	8.1%	8.6%	10.0%
魅力的な住居	7.8%	7.2%	7.1%
街の清潔さ、きれいさ	7.6%	8.2%	5.1%
医療機関の充実	7.2%	8.3%	6.7%
子供の安全性	6.5%	8.0%	6.9%
図書館など、公園やイベント施設などの人が集う施設の充実	6.5%	6.8%	7.8%
職場アクセス(バス)	4.0%	4.1%	3.1%
街に活気がありにぎわっている	3.7%	3.6%	3.2%
商業施設の充実(レジャー・贅沢品等)	3.5%	3.5%	1.5%
小学校～高校の選択肢の数	3.4%	4.1%	3.9%
保育施設の充実	3.3%	3.2%	5.6%
その他	3.0%	3.9%	2.1%
育児補助金	2.7%	4.1%	0.0%
小学校～高校の教育レベル	1.8%	2.1%	2.2%
出産補助金	1.2%	2.0%	0.0%
大学/研究機関の充実	0.3%	0.0%	0.0%
介護施設の充実	0.1%	0.0%	0.0%

資料: 生活者アンケート

生活者の居住地選定要件 _ タイミング(想起/選定/居住後)別の比較(5地域)

居住地	タイミング	職場アクセス (電車)	職場アクセス (自家用車)	職場アクセス (徒歩/自転車)	余暇における 交通機関の利 便性	商業施設の充 実(日用品)	育児環境	その他の治安	街が閑静で落 ち着いている	緑地などの自 然の多さ	家賃・地価
小牧市	想起時	13.3%	57.8%	10.8%	7.2%	10.8%	6.0%	0.0%	3.6%	3.6%	12.0%
	選定時	12.7%	42.3%	19.7%	11.3%	14.1%	15.5%	11.3%	9.9%	7.0%	35.2%
	居住後	4.8%	28.3%	16.0%	9.1%	25.7%	26.7%	12.8%	16.0%	24.6%	13.4%
長久手市	想起時	16.7%	35.7%	9.5%	14.3%	21.4%	11.9%	4.8%	19.0%	31.0%	23.8%
	選定時	17.4%	43.5%	21.7%	13.0%	30.4%	26.1%	8.7%	21.7%	26.1%	26.1%
	居住後	17.4%	30.4%	13.0%	17.4%	43.5%	30.4%	21.7%	47.8%	43.5%	8.7%
日進市	想起時	9.7%	35.5%	12.9%	16.1%	9.7%	16.1%	6.5%	16.1%	19.4%	16.1%
	選定時	23.8%	38.1%	14.3%	9.5%	9.5%	14.3%	19.0%	19.0%	19.0%	19.0%
	居住後	17.4%	34.8%	17.4%	4.3%	13.0%	4.3%	8.7%	30.4%	34.8%	13.0%
春日井市	想起時	25.9%	43.4%	9.8%	11.2%	10.5%	7.0%	6.3%	11.2%	8.4%	17.5%
	選定時	26.9%	50.0%	15.4%	8.7%	14.4%	5.8%	8.7%	11.5%	6.7%	26.9%
	居住後	17.0%	39.3%	8.9%	8.9%	27.7%	16.1%	9.8%	24.1%	20.5%	11.6%
犬山市	想起時	17.8%	37.8%	17.8%	6.7%	4.4%	8.9%	6.7%	15.6%	20.0%	28.9%
	選定時	16.0%	68.0%	20.0%	16.0%	4.0%	16.0%	8.0%	36.0%	36.0%	44.0%
	居住後	17.2%	51.7%	24.1%	13.8%	6.9%	13.8%	27.6%	41.4%	37.9%	34.5%

人口増加率が高い地域

隣接地域

生活者要件のまとめ

•生活者要件は就労環境(職場アクセス・柔軟性)、居住環境(ライフステージに適合した住居・街)、育児環境(子の安全・充実した育児サポート)である

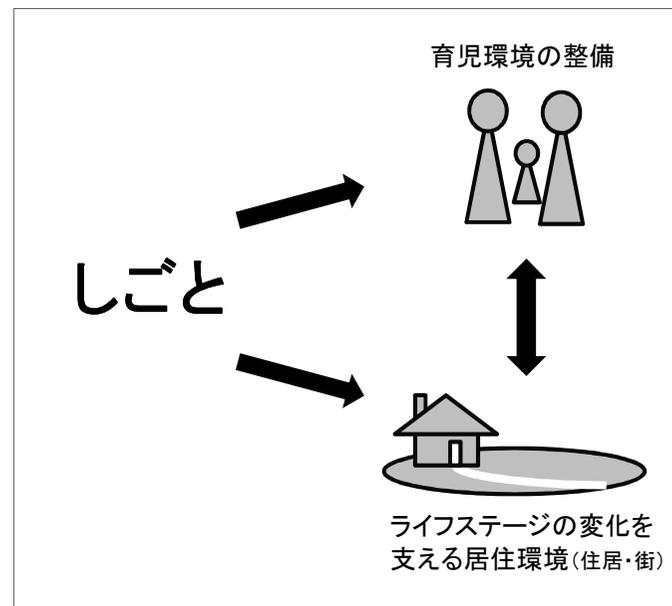
事前分析・アンケートで 明らかになった生活者要件	戦略会議における追加論点	タウンミーティング	生活者要件の再定義
<ul style="list-style-type: none"> • 職場アクセス <ul style="list-style-type: none"> - 自家用車 - 電車 - 徒歩/自転車 	<ul style="list-style-type: none"> • 女性が仕事と育児を両立できるような職住近接の環境 	<ul style="list-style-type: none"> • 快適な職場アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> • 充実した企業数・仕事環境
+			
<ul style="list-style-type: none"> • 居住環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> - 地価/家賃 - 医療機関の充実 - 治安 	<ul style="list-style-type: none"> • ライフステージの変化(出産等)に適合した住居の存在 	<ul style="list-style-type: none"> • 住宅補助 • 病院アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> • 育児世代(特に女性)の職場アクセスや柔軟な雇用環境 • ライフステージに適合した(住居・街双方の)居住環境 • 安全で充実した育児環境
<ul style="list-style-type: none"> • 育児環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> - 保育施設の質・数 - 育児補助金 - 出産補助金 	<ul style="list-style-type: none"> • 教育や育児に関わる施策の充実 • 良好な治安 	<ul style="list-style-type: none"> • 教育や育児に関わる施策の充実 • 良好な治安 	
+			
-	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい働き方への対応 • ソーシャル・キャピタルのような非経済的指標による市の活性化 	-	<ul style="list-style-type: none"> • 上記の要件にトレードオフがなく、且つ全てを満たすことができる環境作り

将来ビジョンの検討・・・目指すべき方向(案)

目指すべき方向
向
(案)

- 多くの企業が立地する小牧市ならではの強みを活かす
- 若年世代の仕事と子育ての両立を支援し、ライフステージに適合した居住環境を提供する
- その魅力を小牧市民及び近隣の市町村の生活者に伝える

イメージ



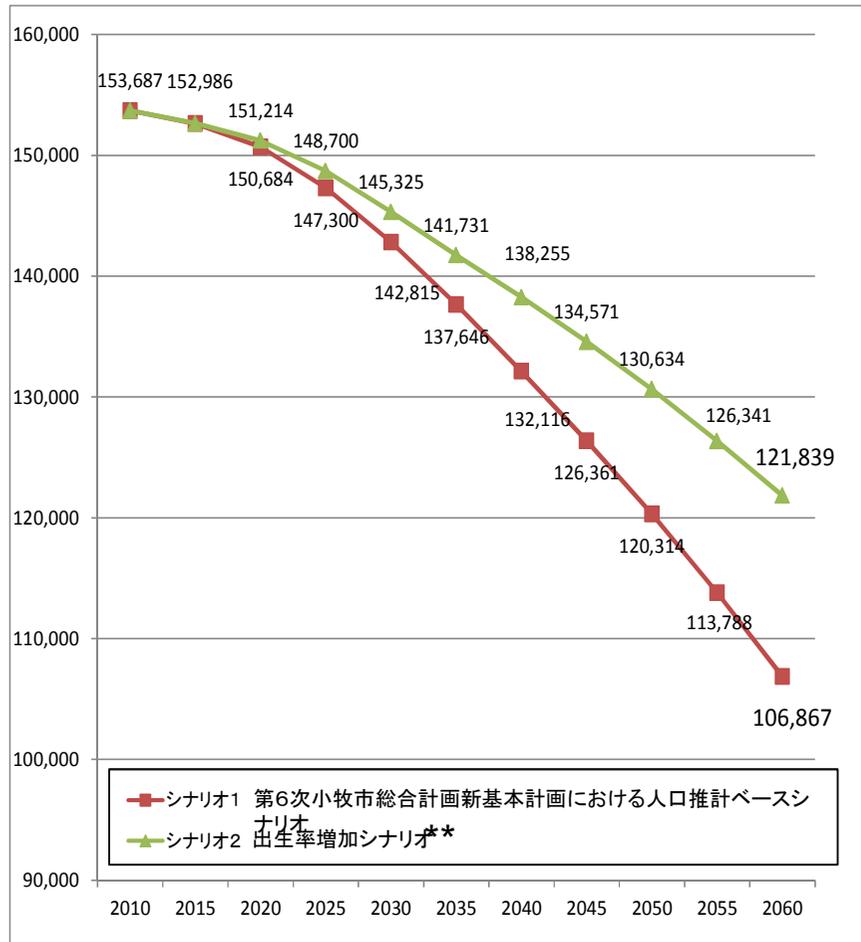
×



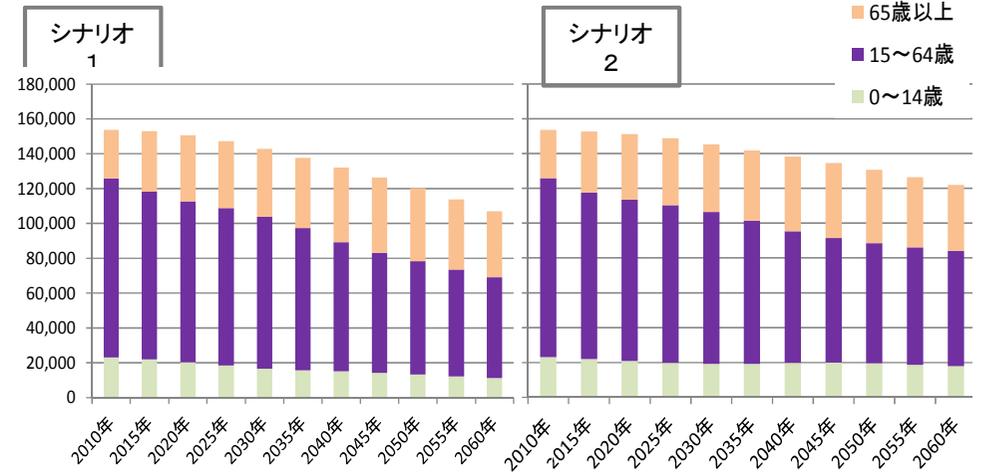
人口の将来展望

- 近年の本市の人口動態を踏まえ、将来人口を推計すると、2060年には約10.6万人に減少することが見込まれます。
- しかし、目指すべき将来の方向に沿った今後の施策の効果により、2060年の人口として12万人程度の確保を目指します。

シナリオ別将来人口推計*



シナリオ別人口構成比の推移(人)



シナリオ1		実績値		推計値										
		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年		
総人口	実数(人)	153,687	152,986	150,684	147,300	142,815	137,646	132,116	126,361	120,314	113,788	106,867		
年少人口	実数(人)	23,183	21,865	20,298	18,421	16,735	15,750	15,083	14,298	13,281	12,203	11,236		
0~14歳	構成比(%)	15.1%	14.3%	13.5%	12.5%	11.7%	11.4%	11.4%	11.3%	11.0%	10.7%	10.5%		
生産年齢人口	実数(人)	102,630	96,424	92,503	90,351	87,083	81,627	74,140	68,881	64,958	61,341	57,885		
15~64歳	構成比(%)	66.8%	63.0%	61.4%	61.3%	61.0%	59.3%	56.1%	54.5%	54.0%	53.9%	54.2%		
老年人口	実数(人)	27,874	34,697	37,884	38,528	38,997	40,269	42,893	43,182	42,076	40,245	37,745		
65歳以上	構成比(%)	18.1%	22.7%	25.1%	26.2%	27.3%	29.3%	32.5%	34.2%	35.0%	35.4%	35.3%		

シナリオ2		実績値		推計値										
		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年		
総人口	実数(人)	153,687	152,986	151,214	148,700	145,325	141,731	138,255	134,571	130,634	126,341	121,839		
年少人口	実数(人)	23,183	21,865	20,827	19,821	19,220	19,337	19,876	20,041	19,547	18,655	18,038		
0~14歳	構成比(%)	15.1%	14.3%	13.8%	13.3%	13.2%	13.6%	14.4%	14.9%	15.0%	14.8%	14.8%		
生産年齢人口	実数(人)	102,630	96,424	92,503	90,351	87,108	82,125	75,486	71,348	69,011	67,442	66,055		
15~64歳	構成比(%)	66.8%	63.0%	61.2%	60.8%	59.9%	57.9%	54.6%	53.0%	52.8%	53.4%	54.2%		
老年人口	実数(人)	27,874	34,697	37,884	38,528	38,997	40,269	42,893	43,182	42,076	40,245	37,745		
65歳以上	構成比(%)	18.1%	22.7%	25.1%	25.9%	26.8%	28.4%	31.0%	32.1%	32.2%	31.9%	31.0%		

* 2010年の人口は住民基本台帳の数値を使用。変数(合計特殊出生率、純移動率等)は国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠
 **合計特殊出生率が、1.55(2010)、1.80(2030)、2.07(2040-2060)と変化すると想定。間の区間は線型的に増加するものと仮定

※上記3区分の推計値は、四捨五入表記のため総人口と1ずれる場合があります。